

春物衣料伸びる

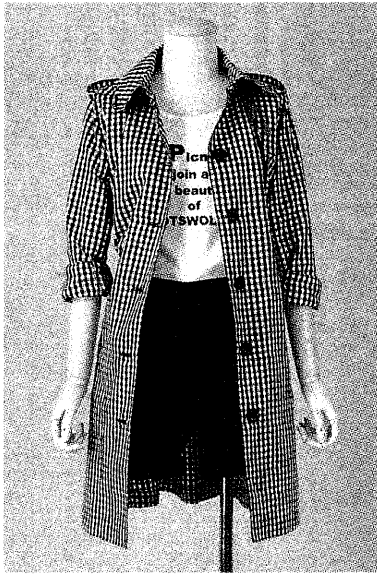
大手アパレル百貨店婦人服商況

大手アパレルメーカーの百貨店向け婦人服が、4月に入って回復傾向にある。前年実績を上回ったところが多く、ブランドによって多少のばらつきはあるものの、2ヶ月前も出ている。寒の戻りを見越して、アウター商品の店頭在庫を厚くしたブランドが好調で、スプリングコート、ジャケットがリード役となった。

関連記事の面に

寒さでアウター牽引

カギは春コート



「マッキントッシュ・フィロソフィー」のポケットダブルレイ

■2ヶ月前

三陽商会の「マッキントッシュ・フィロソフィー」は2ヶ月前と勢いづいている。4月に入ると、2万6000円(本体)のポケットダブルコート、綿のボンディングコートがヒットした。「トウ・ビー・シツク」では、デニム地を取り入れたツイードジャケット、レース使いのチュニックブラウスが売

れている。比較的高単価の動きが活発になっている。サンエー・インターナショナルでは、「ボアイトレッシングデラックス」が27・8%増、「ナチュラールビューティー」が15%増となった。売れ筋はブランドによって異なるが、単品買いが目立ち、羽織り物や春らしい鮮度のある商品が動いた。ナチュラールビューティーの1万5000円のシフォンブラウスが、

「ピンキー&タイ」の4万2000円のリバーンコートが売れ、オンワード樺山は、3月中旬以降、前年実績を超越するブランドが出てきている。「ICB」では、単品に比重を置いたMDが功を奏し、単品の売れ行きが2ヶ月前の増収となって全体を牽引した。売れ筋は、パールのネックレスをセットにした1万4000円の綿サテンのシャツブラウス、1万3000円のミックスポーター柄のベスト。「23区」では、カシミアテイストのスプリングコートが好評なほか、単品のヒット品番が出ている。シフォン使いのシャギーのカットソートップ、エンプロイタリーの編みブラウスなどで、

独自性があり、季節感を楽しめる商品が中心。「リバティ」柄を打ち出したフェアを実施した「組曲」では、デニムやレース生地と同柄をのせた商品が売りの上げの上位を占めた。ワールドの「モディファイ」は、今月中旬まで前年実績を上回って推移している。売りの上げを牽引するのは、4万1000円の襟と袖にキヤザーやシャリリングを施したジャケット、2万3500円のフード付きロングカーディガンなどアウターが中心。レナウンの「アグアスキュータム」でも、4月に入ってもコートが売れ続け、5万6000円のナイロンタフタのコートがヒットしている。連休に向け、チエック柄のカットソートップ、麻素材の羽織り物を仕掛けていく。

東京スタイルでは、全社共通の独自開発素材でヤング・キャリアからミッシェル・ミセスまでのはほぼ全ブランドで採用する「SVM」(スパーバリエーリー)素材を使った。企画の商品が好評だった。ギザ綿のストレッツツイル素材で、「スタイルコム」などいくつかのブランドで作った2万1000円のスタンドカラーコート、透け防止素材を使って「ヴァンドゥー・オクトーブル」などで作った1万1000円のクロップト丈のパンツなどが売れ筋となった。連休に向け、吸湿速乾と接触冷感機能を持つ「ボディキューアクール」を使ったカットソー商品を充実させる。

■高単価へ

ルックの「トウ・ビー」は、ジャケット、コート、ブラウスなど羽織りの物が動き、3月の最終週(3月29日~4月4日)11%増、4月の第2週(4月12日~18日)5%増。大型連休には、吸汗速乾といった機能素材を使ったカットソートップ、セット企画を充実して客数を増やす。イトキンでは、軽さを重視したスプリングコートやニット羽織りの物が動いた。「シベラ」12%増、「エル・パリー」5%の伸び。「ミッシェルクラム」は4月に入って、「低価格の商品の売りの上げが鈍く、高単価の商品に人気が集まっている」ことを受けて、UV加工や防臭加工を施した素材を使った商品や、2次加工で手の込んだアルーパーカットソー商品を打ち出して、プロパー消化率を高める。長く続いた消費者の低価格志向は弱まりつつあり、単価は高けれども価値のある商品が支持されるようになってきた。大型連休に向けて、気温の上昇につれ

て動き始めた機能商品や、ブランド価値を前面に出した単品を強化する。